

はじめに

近年、日本はプラネタリウムの建設ブームである。大小を含めて300近くのプラネタリウムをもつ日本は、数の上ではアメリカに次ぐプラネタリウム王国となった。全体の20%は、学校など特定の利用者のために設置されたものなので、不特定の一般市民を対象にした、社会教育施設のプラネタリウムは約230といつたところである。

都会の喧噪の中、星空という静かな情緒を求めて....素晴らしい現代天文学の成果の普及のために....あるいは公共施設のシンボルとして....天文教育の場が全国各地に増えることは、大いに歓迎したい。

ただ、近年の日本のプラネタリウムが、大型化、傾斜ドーム化、投影内容のSFショ一化、大型映像との併用、多目的ホール化、解説の自動化など、だいたい同じパターンで建設、運営されているという点は、少し考えてみる必要があるのではないだろうか。歓迎できる点も大いにあるが、プラネタリウムを天文教育機器と考えると、問題点も多くあげられるのである。

この「教育のためのプラネタリウム」は、プラネタリウムを、教育機器（学校教育、社会教育、生涯教育のための施設）ととらえた場合、プラネタリウムの建設計画と運営の方法について、現場のいくつかの問題点も考え合わせ、望ましい設置基準としてまとめたものである。

日本のプラネタリウムが、よりよい形で建設・運営され、天文教育に献し、発展と進化をとげることに、本書が少しでも役立つことができれば幸である。

1993年4月1日（初版発行）

1998年3月31日（第2版発行）

天文教育普及研究会

プラネタリウム・ワーキンググループ



天文学のミューズ・ウラニア

◆用語解説◆

- ◇**投影と投映**——プラネタリウムでは、古くからprojectionの訳語である投影が使用されてきたが、スライド等を使用することが多い最近では、映像を映す、という意味で投映（業界の造語）も多く用いられている。この本では投影で統一した。
- ◇**学習投影**——学校団体向けに、授業の一巻として行なう投影。多くは学習指導要領にそった内容で制作される。小～高校まで各学年ごとに内容は異なる。
- ◇**幼児向け投影**——幼稚園・保育園団体向けに制作された投影。
- ◇**一般投影**——学習投影に対する用語で、一般入館者向けの普通のプラネタリウム投影のこと。
- ◇**ドームとスクリーン**——ドームとは本来丸い屋根のことで、スクリーンはプラネタリウムや映画を映す白い壁のことだ。であるので、傾斜型プラネタリウムで用いられる傾斜したスクリーンは、正しくは傾斜型球形スクリーンという。しかし、一般にはあまり使用されておらず、言いにくい。この本では、慣用に従い、球形スクリーンのことをドームと呼ぶことにする。
- ◇**全天全周映画**——プラネタリウムのような丸いスクリーンに、魚眼レンズを使って投影される映画のこと。70mmでは、アストロビジョン70、ウルトラ70（五藤光学研究所）、オムニマックス、オムニU（IMAXジャパン）、アイワーヌスフィア（ミノルタカメラ）、35mmではアストロビジョン35等がある。どれも傾斜ドームでの投影が標準仕様である。
- ◇**宇宙型プラネタリウム**——昔は、惑星投影機と本体が分離して、地球以外の場所からみた星空を再現でき、かつ傾斜型であるプラネタリウムのことを指した。ところが、現在は惑星投影機を分離したプラネタリウムがフラットドームにも据え付けられており、必ずしも傾斜式を指すわけではなくなった。
- ◇**従来型プラネタリウム**——恒星投影機と惑星投影機がいっしょに動く、昔ながらの形のプラネタリウムのこと。

